



スクリーンを使って活動の説明をするジョン・オオモリ氏(左)

東京五輪後、夢あるレガシーへ

■2020東京五輪ホストタウン記念講演会

3月12日、相良総合センターい〜らで「2020東京五輪ホストタウン記念講演会」が開催され、ホストタウン関係者ら約90人が参加しました。

市制作のドキュメンタリー映像の上映後、米国オリンピック・パラリンピック委員会の元日本代表駐在員ジョン・オオモリ氏と、大阪体育大学の原田宗彦学長による講演が行われました。

原田学長は、東京五輪を振り返り、牧之原市の未来につながるレガシーの継承や可能性などについて話し、参加者は興味深く耳を傾けました。

一流の競技技術を間近で体感

■オリンピックによる陸上教室

牧之原小学校体育館で3月9日、牧之原小学校4～6年生と牧之原中学校1年生を対象に「オリンピックによる陸上教室」が開催されました。

陸上5千メートル・1万メートルで北京五輪に出場した講師の竹澤健介さん(大阪経済大学陸上競技部ヘッドコーチ)は、走るときのポイントとして、姿勢や手の握り方などを丁寧にアドバイスしました。

牧之原中学校1年の吉國颯真さんは「陸上をやっているの、今日の授業の内容をこれからの競技に生かしたい」と話しました。



走るときの姿勢を指導する竹澤さん(右奥)

ぼくのまち、わたしのまちをつくろう!

■絵本作家・スギヤマカナヨさんとワークショップ

ミルキーウェイスクエア(波津区)で3月19日、三島市出身の絵本作家・スギヤマカナヨさんの絵本『ぼくのまちをつくろう!』を題材にしたワークショップが開催され、市内の小学生とその保護者48人が参加しました。

参加した子どもたちには、道路が描かれた台紙と、建物などの絵が描かれた紙を配付。子どもたちはハサミで絵を切り取って台紙に貼り付けたり、好きな色を塗ったりして、思い思いのまちを作り上げました。



子どもたちの作業を見守るスギヤマカナヨさん(右)



「少年少女ノーベル賞」受賞者との記念撮影

各分野での優秀な成績を表彰

■牧之原市教育委員会表彰 表彰式

「牧之原市教育委員会表彰」表彰式が3月11日、市役所相良庁舎で開催されました。

本年度の表彰式は、前年に続き、感染症拡大防止対策として「少年少女ノーベル賞」のみ授与する形で実施しました。「少年少女ノーベル賞」は、教育の各分野において全国規模の大会やコンクールなどで8位同等以上の成績を収めた人を対象とするものです。

市長や教育長からは、各受賞者への賛辞と今後の更なる活躍への期待が話されました。

\*記事中の学年は令和3年度のものです。

広報担当がどこにでも取材に行きます。あなたの身近にあるホットで楽しい話題やイベントなどの情報をお待ちしています。

情報交流課 ☎0040 ✉seisaku@city.makinohara.shizuoka.jp

ズームイン!  
カシャ!!



「第2回お茶はがきデザインコンテスト」の受賞者の皆さん

新茶の季節がやってきた

■静岡牧之原茶のイベントを同時開催

ミルキーウェイスクエア(波津区)で3月19日、静岡牧之原茶のイベントが開催されました。

新茶祈願祭では、茶業関係者らが今年のお茶の安心安全な生育と活発な取引を祈念しました。その後、「第2回お茶はがきデザインコンテスト」授賞式が開催され、グランプリを始め各賞を受賞した皆さんが表彰されました。グランプリを受賞した伊藤莉子さん(榛原中学校2年)は、「私の書いた絵を通して牧之原市に興味を持っていただけたらうれしい」と話しました。

新茶まつりでは、前日に摘採されたハウス新茶やお茶関連商品の販売、試飲、手揉みの実演などが行われ、一足早い春の訪れを求めた来場者でにぎわいました。

本は五感で感じる身近な存在

■よもーね!マキノハラ講演会

榛原文化センターで3月6日、よもーね!マキノハラ講演会「～走る本屋さんが語る～本は五感で感じる身近な存在」が開催され、市内外から35人が参加しました。

講師の高木久直さんは、書店を経営するかたわら「走る本屋さん」として本の出張販売などの活動をしており、その経験談や子どもの絵本の選び方、読み聞かせのポイントなどを、優しい語り口で講演しました。参加者は「絵本の読み聞かせの大切さを再認識できた」と感想を話しました。



講師の高木さん(左)の話に聞き入る参加者



杉本市長に受賞の報告をする児童

地域の人と一緒に学校を花いっぱい

■「花緑コンクール」最優秀賞受賞を報告

萩間小学校の「花いっぱい委員会」が「ふじのくに花の都しずおか・花緑コンクール」で最優秀賞を受賞し、3月1日に杉本市長に報告しました。

同委員会の5・6年生のメンバーが画用紙に貼った花壇の写真などで活動を紹介すると、杉本市長は「地域の皆さんと一緒にやりとげた経験は一生の財産。自信にしてほしい」と話しました。

6年生の大石小春さんは「大変なこともあったけど、学校のみならず地域の人の協力もあり、やりがいと達成感を感じた」と笑顔で話しました。